

平成 27 年度第 1 回大阪府地方独立行政法人
大阪府立環境農林水産総合研究所評価委員会
議事要旨

- 1 日時 平成 27 年 7 月 29 日（水）午後 1 時 30 分～
- 2 場所 大阪赤十字会館 401 会議室
- 3 出席委員 原島委員長、近藤委員、芝原委員、水谷委員、渡辺委員
菊井専門委員、喜田専門委員、山田専門委員

4 議事内容

(1) 委員長の選任について

大阪府地方独立行政法人評価委員会条例第 5 条の規定に基づき、委員の互選により、異議なく、原島委員が委員長に選任された。

- 続いて、事務局より、参考資料 1 により今年度の委員会の審議スケジュールの説明を行った。

(2) 中期目標期間終了時の検討に係る意見について

(3) 次期中期目標及び中期計画について

始めに、中期目標期間終了時の検討に係る意見のまとめ方について、委員長から、

- これまでの法人の業務実績を概括的に振り返り、次期中期目標と中期計画の策定に資するための意見を大局的な観点でまとめること
- 意見書に盛り込む内容として、
第 1 に「中期目標・中期計画の全体的な進捗状況と総括」、
第 2 に「今後も取り組みを続けて欲しいこと」、
第 3 に「次期中期目標に盛り込んで欲しいこと」

という構成でまとめること

が提案され、全委員が了承した。

次に、法人から、資料 1 に基づき、第 1 期中期計画の進捗状況の説明がなされた。

続いて、大阪府環境農林水産総務課から、資料 2 及び資料 3 に基づき、第 1 期中期計画期間の業務総括と第 2 期中期目標（素案）の説明がなされた。

続いて、法人から、資料 4 に基づき、第 2 期中期計画（素案）の概要の説明がなされた。

その後、議題（2）の「中期目標期間終了時の検討に係る意見」と、議題（3）

の「次期中期目標及び中期計画についての意見」は、密接に関連していることから、一括して審議が行われた。

<主な意見>

- 研究所は様々な取組を行ってきており、全体として研究所は大阪府に必要な存在となっている。
- 環境分野と農林水産分野が融合した研究所として、具体的にどういうものがあるのか分かりにくい。環境分野と農林水産分野が融合している特長を打ち出して欲しい。
- 「プレゼンス」のある研究所とは、存在感のある研究所ととらえてよいか。分かりやすい言葉で、府民に分かるようなアピールをするには、カタカナ多用は避けてほしい。
- キジハタが非常に増えており、漁業者は感謝している。
- 農業大学校の役割を明確にするために、農業大学校が目標に明記されることは大事。
- 課題が顕在化するまでに将来を見据えて考えていく必要がある。異常気象などでは全国の研究機関と連携していく取組が大事。
- 自己資金を獲得し、財源を確保するためにも、技術力、研究力は大事である。技術力、研究力を高める努力が重要である。
- 技術支援サービスが大きなウェイトを占める一方、研究もしなければならない。研究と支援のバランスについて、次期中期計画において、限られた予算の中でどう考えるか検討が必要。
- 研究所が魅力的な就職先でなければならない。人材育成（どういう風に人を育てていくのか）を書いて欲しい。

(4) その他 特になし

以上